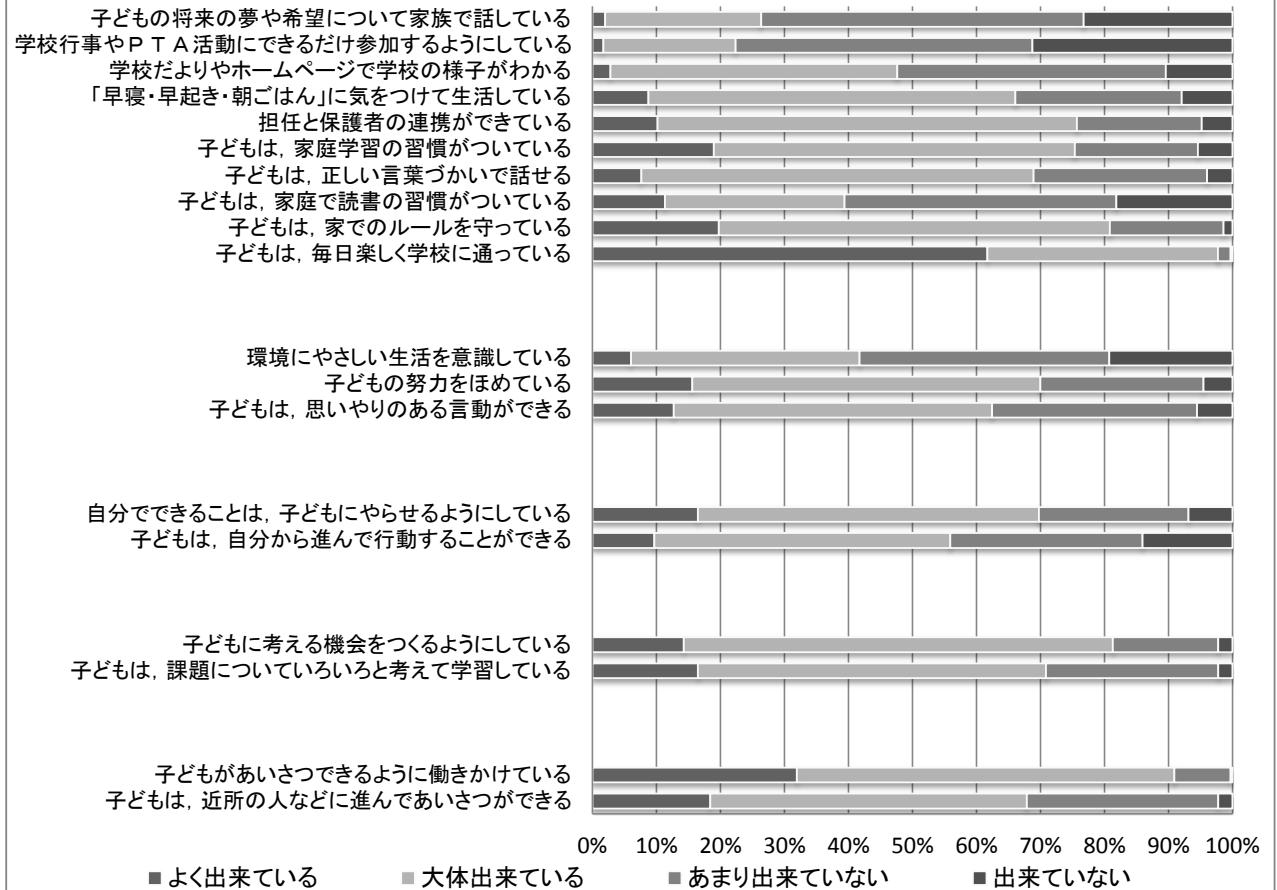


あかしや通信 臨時号(学校アンケートより)

平成31年3月18日 京都市立朱雀第四小学校 校長 平野 智洋



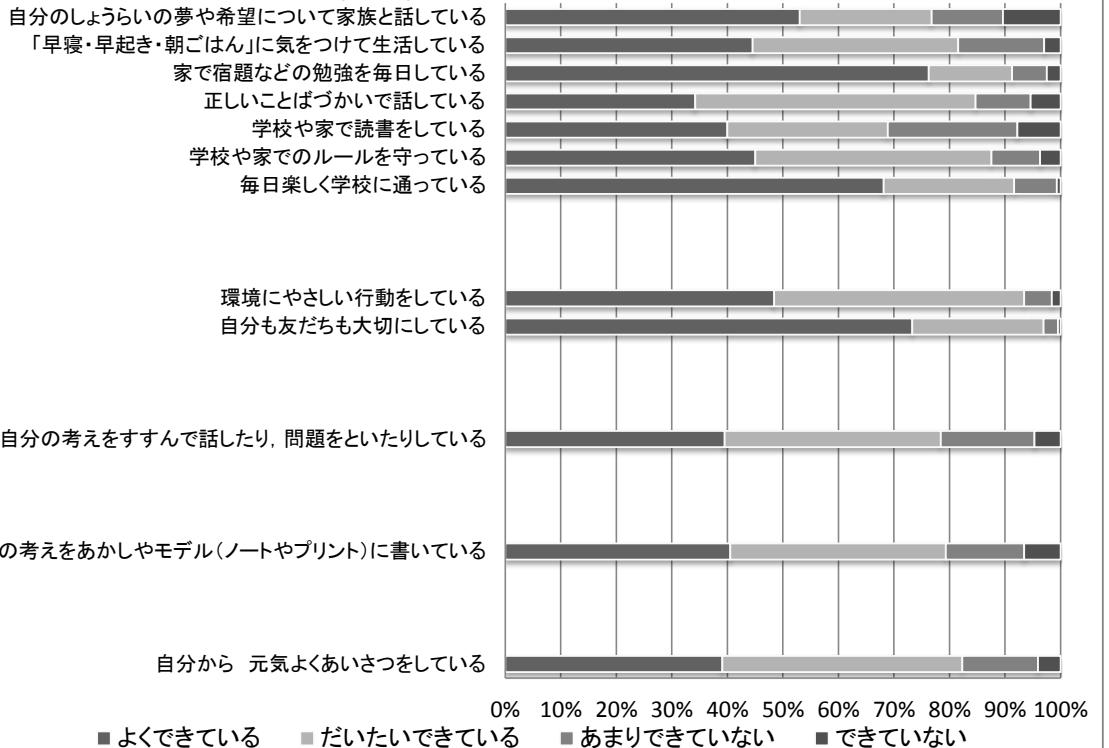
平成30年度 第2回学校アンケート《保護者版》



○保護者版の結果より

- ・担任と保護者の連携があまりとれないと回答が20%ほどあります。子どもたちを見守り良い方向に導いていくためには、学校と保護者、地域との連携が不可欠です。保護者や地域のみなさまから信頼していただき、同じ思いで子どもたちに関わって頂けるように担任からの連絡や発信を密にするとともに、スクールカウンセラーや通級教室担任などにも協力を仰ぎ学校全体で支援をしていかなければならぬと思っています。また、学校だよりやホームページを通して子どもたちの様子を伝えていきます。ホームページについては、学年によって発信数や頻度に差がありました、来年度は、差ができるないようにしていきたいです。
- ・家庭学習は、習慣づけが出来ている子が増えましたが、読書の習慣については、伸び悩んでいます。家庭で学習環境を整えたり、親子で活字に触れる機会を作ったりすることも読書量を増やす一因だと思います。学校図書館も子どもたちにとって親しみが持てる場となるように、そして、情報収集の場としてすぐに活用できるように学校司書を中心に図書の配架の仕方など、工夫して整備していきます。また、図書ボランティアの方にもご協力いただき、パネルシアターなど子どもたちが本好きになるような企画をたくさん取り入れていきたいです。

平成30年度 第2回学校アンケート《児童版》



○児童版の結果より

- ・ほとんどの子どもたちは、毎日楽しく学校に通えているようです。しかし、ごく一部の児童は、学校生活を楽しむことが難しいようです。友だちとの関係に悩んでいたり、学習に不安があつたりその思いを担任や親に話せなかつたりしています。また、集団登校で来ることが難しい児童もいます。基本的な生活習慣の乱れが不登校や遅刻の原因になっていることもあります。「早寝・早起き・朝ごはん」に気をつけて生活することができない児童が20パーセント近くいるのですが、週末の予定や就寝時間に気を付けて生活習慣を整えていくことが、元気に通学するうえでとても大切です。
- ・「環境にやさしい行動をしている」「自分も友だちも大切にしている」については、第1回目よりも「できる」と答えた児童が増えました。せいかつ科や3年～6年の総合的な学習の時間に身の周りの自然や生き物の命を大切にすることについて継続的に学習を積み重ねてきた結果だと思います。本年度も環境大臣賞をはじめとし、京都環境賞や低炭素杯「優秀賞」、学校自慢エコ大賞「優秀賞」、まちかど生き物観察記「最優秀賞」などたくさん賞をいただきました。毎年、地域やいろいろな団体の皆様に支えていただきながら、活動を積み重ねてきた結果だと嬉しく思っています。子どもたちが目を輝かせながら課題に向かって行くような学習活動をこれからも続けていきたいです。また、新指導要領が32年度から全面実施となります。その内容を受けて、これからは、学習したことを自分の生活や将来に生かす力が必要となります。本校の子どもたちは、「自ら進んで」という部分に弱さが見られます。学校全体で、学校の強味や弱味について考え、子どもたちにどんな力を付けていくかについてよく話し合い、共通認識していくなければならないと考えています。